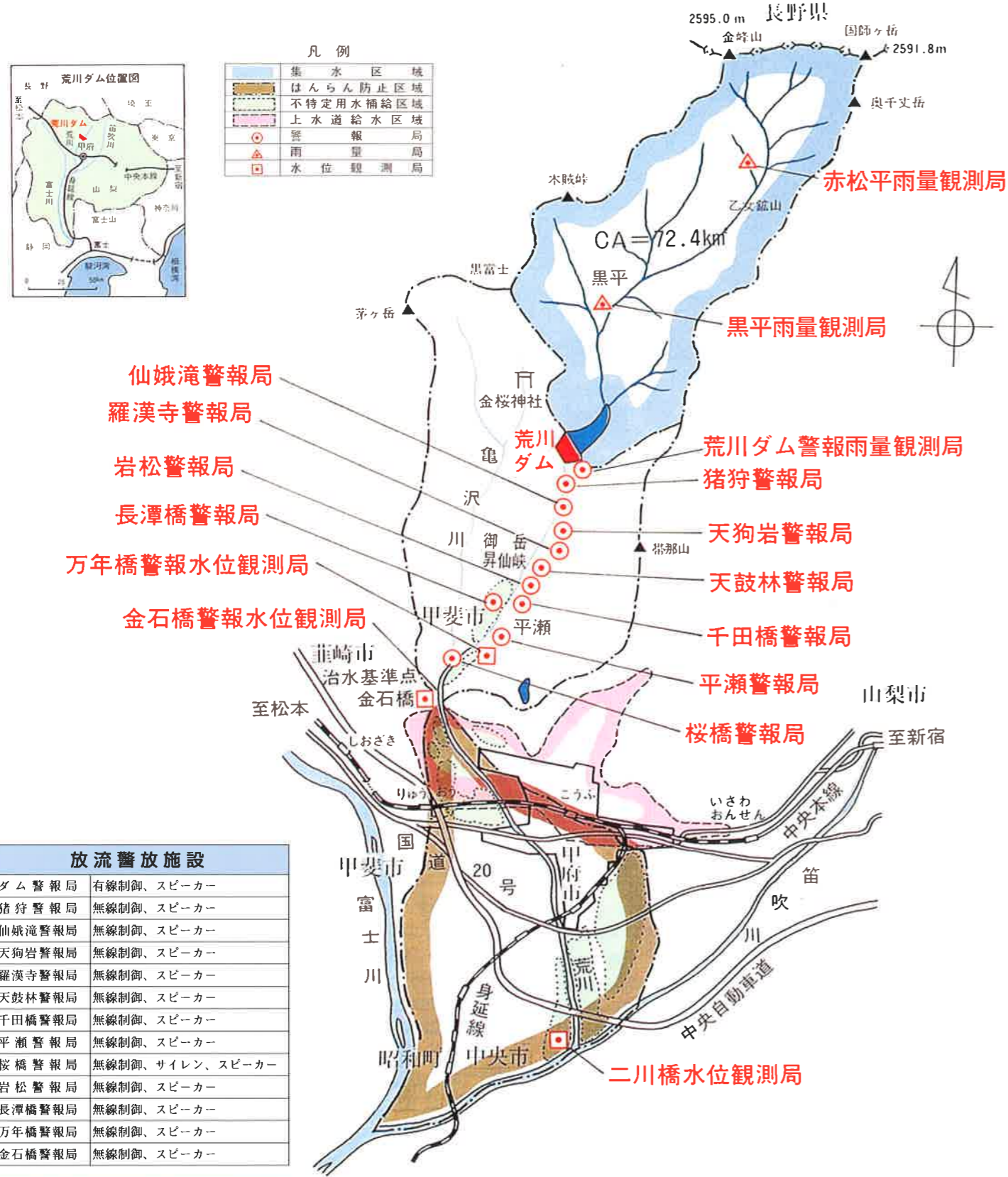


荒川総合開発計画流域一覧図



放流警放施設	
ダム警報局	有線制御、スピーカー
猪狩警報局	無線制御、スピーカー
仙娥滝警報局	無線制御、スピーカー
天狗岩警報局	無線制御、スピーカー
羅漢寺警報局	無線制御、スピーカー
天鼓林警報局	無線制御、スピーカー
千田橋警報局	無線制御、スピーカー
平瀬警報局	無線制御、スピーカー
桜橋警報局	無線制御、サイレン、スピーカー
岩松警報局	無線制御、スピーカー
長潭橋警報局	無線制御、スピーカー
万年橋警報局	無線制御、スピーカー
金石橋警報局	無線制御、スピーカー

放流設備	
常用洪水吐 (オフィス)	洪水期 ラジアルゲート 1門 4.40m×4.00m
	非洪水期 スライドゲート 2門 3.60m×3.60m
非常用洪水吐	自由越流方式横越流型 越流長 85.0m
	クレスト標高 800.900m
常用低水放流管	ジェットフローゲート φ350 1門
非常用低水放流管	ジェットフローゲート φ1200 1門

雨量観測局
赤松平雨量観測局、黒平雨量観測局、ダム雨量観測局

水位観測局
万年橋水位観測局、金石橋水位観測局、二川橋水位観測局

山梨県県土整備部治水課
〒400-8501 山梨県甲府市丸の内一丁目6-1
TEL 055-237-1111(代)
FAX 055-233-1704

山梨県荒川ダム管理事務所
〒400-1213 山梨県甲府市川窪町浦の山972
TEL 055-287-2006(代)
FAX 055-287-2015

荒川総合開発事業

荒川ダム

(能泉湖)

左岸 甲府市川窪町
右岸 甲府市高町



■河川名■
一級河川 富士川水系 荒川
集水面積 72.4 km²

■貯水池■

湛水面積	0.41 km ²
設計洪水水位 (設計最高水位)	805.00m
サーチャージ水位 (洪水時最高水位)	800.90m
常時満水位 (平常時最高貯水位)	793.60m
夏期制限水位 (洪水貯留準備水位)	783.70m
最低水位	767.00m

■ダム■

型式	中央遮水壁型ロックフィルダム
堤頂標高	808.00m
ダム基礎高	720.00m
堤高	88.00m
堤頂長	320.00m
堤頂巾	10.00m
堤底巾	340.00m
堤体積	3,010,000m ³
地質	凝灰角礫岩、安山岩、集塊岩

■貯水容量■

総貯水容量	10,800,000 m ³
有効貯水容量	8,600,000 m ³
堆砂容量	2,200,000 m ³
洪水調節容量	
洪水期	5,300,000 m ³
非洪水期	2,500,000 m ³
利水容量	
洪水期	3,300,000 m ³
非洪水期	6,100,000 m ³

ダムの概要

荒川は、国師ヶ岳を源を發し、南流して笛吹川に合流する河川です。

河川の勾配が急峻なため明治43年の大水害をはじめ、近くは昭和34年伊勢湾台風等度々、多大な被害を与えてきました。

そのため県は、荒川下流の河川改修工事を継続して行ってきましたが、本河川は、市街地を貫流しているため、用地取得は非常に困難であり、工費も莫大となることから、ダムによる洪水防御の方法が最も経済的と考えられ建設されました。

また、甲府市を中心として発達したこの地域は、近年、産業経済の著しい発展と生活文化の向上により、上水道用水の需要は急激に増加しています。

このため県は、荒川総合開発事業として多目的ダムを建設し、洪水調節に合わせて、甲府市等に上水道用水を供給しています。

ダムの果たす役目

①洪水の調節

ダム地点において、洪水の起こる場合の水量を670 m³/sと見込み、そのうちの490 m³/sをダムに溜め、残りの180 m³/sを下流へ流します。このような洪水調節を行うことにより、金石橋地点下流の地域（甲府市、甲斐市、昭和町、中央市）の水害を防止します。

②流水の正常な機能の維持

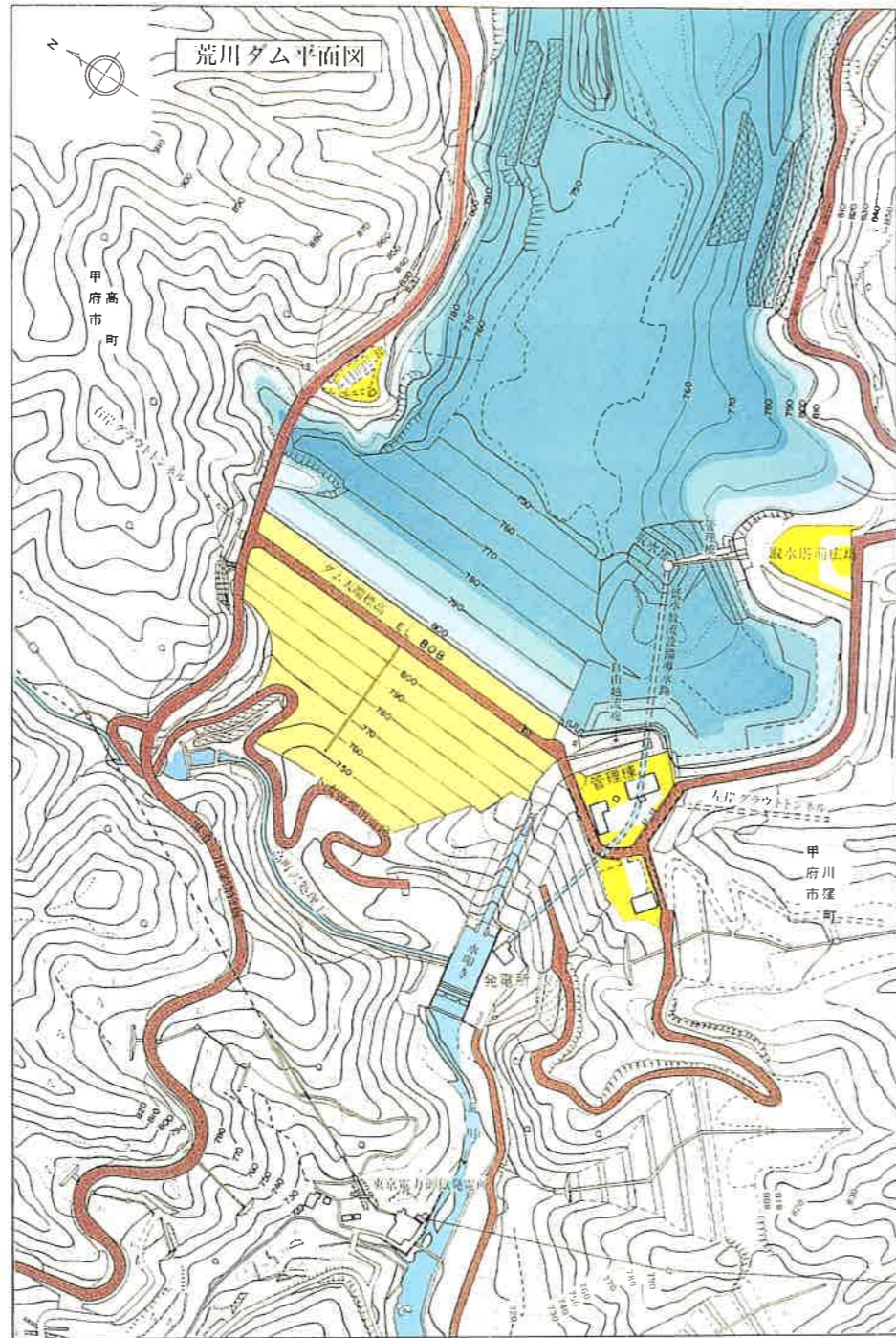
既得用水の補給（かんがい面積766.0ha）ならびに河川維持用水として二川橋地点で維持流量0.5 m³/sを確保します。

③上水道用水の補給

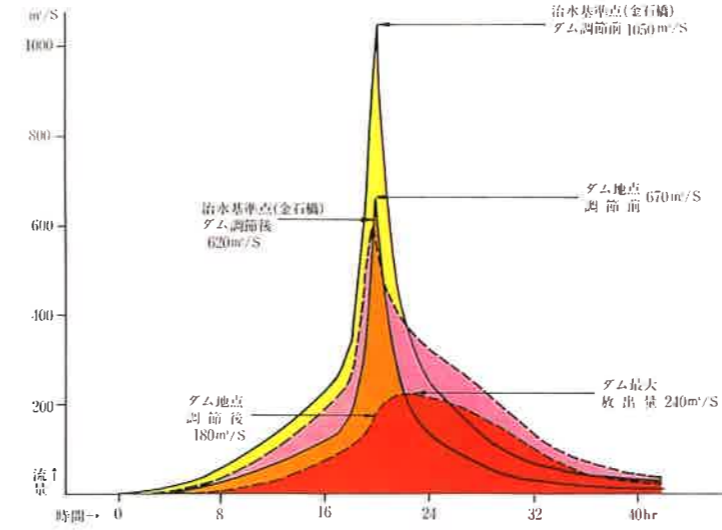
甲府市上水道の給水区域内に対し、平瀬地点において新たに上水道用水として1日最大100,000 m³（1.157 m³/s）を供給します。

④管理用発電

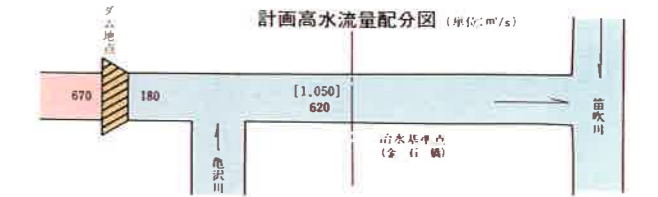
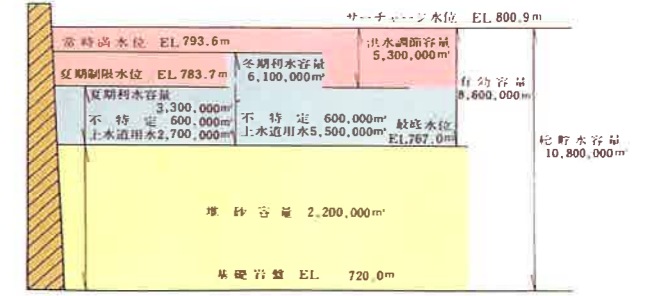
ダム管理費削減等、合理化を図るため、利水放流を利用し管理用発電を行います。（最大出力490kW）



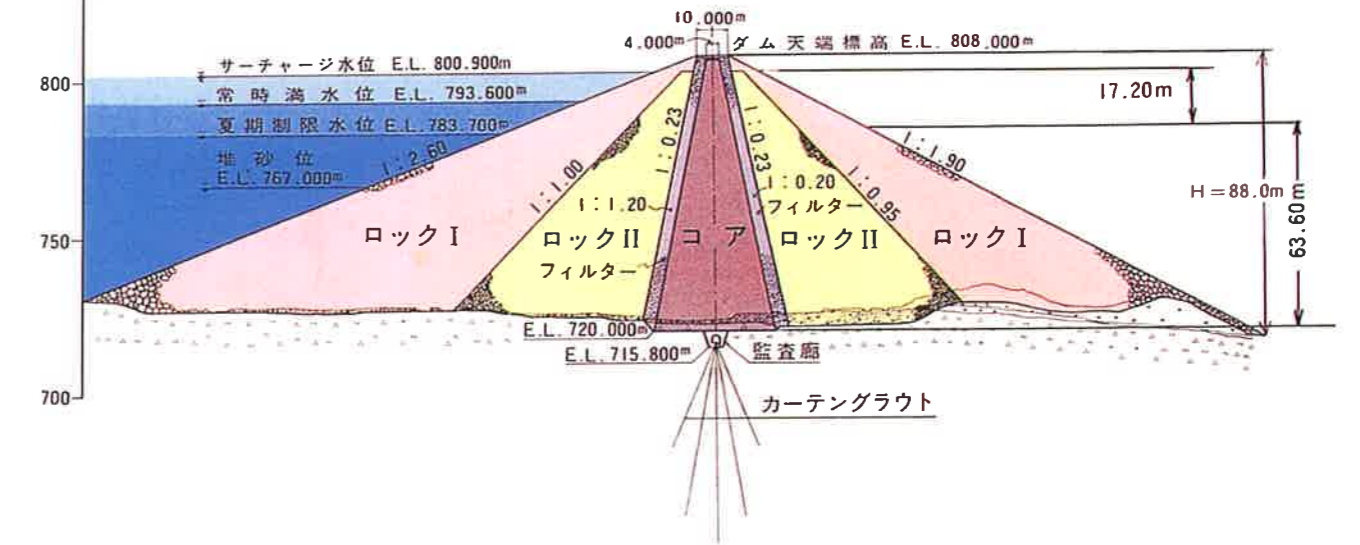
洪水調節図



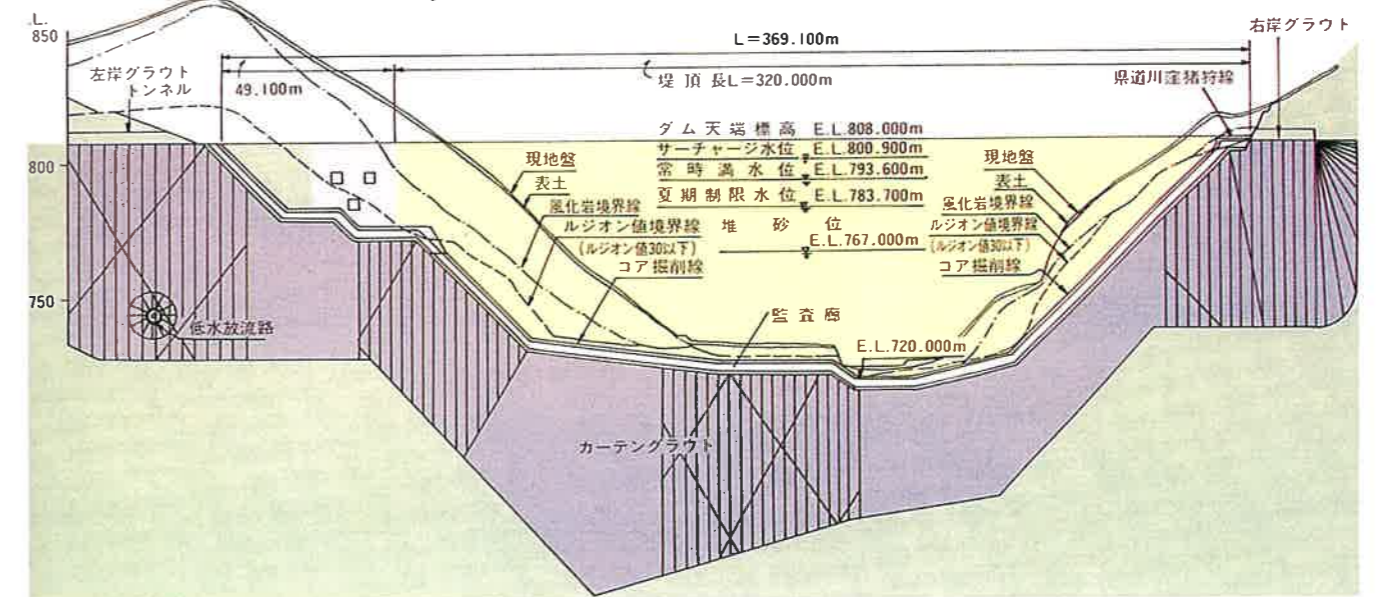
貯水池容量配分図



ダム標準断面図



ダム上流側面図



ダムサイトの地質について

ダムサイトの地質は、「新第三紀中新世の凝灰角礫岩」及び、「第四紀更新世の安山岩、集塊岩」で風化部分を除き、良く固結し亀裂の少ない安定した岩盤で、フィルダムの基礎として非常に良好です。

事業の経過

S 4 4 . 4	県単費にて予備調査開始	S 5 6 . 5	ロック盛立開始
S 4 8 . 4	国庫補助実施計画調査	S 5 6 . 7	コア盛立開始
S 5 0 . 4	建設事業採択	S 5 6 . 1 0	定礎式
S 5 3 . 3	補償基準調印	S 5 9 . 6	本体盛立完成
S 5 3 . 1 2	ダム本体工事契約	S 5 9 . 1 0	湛水開始
S 5 4 . 1	仮排水路工事着工	S 6 1 . 3	完成
S 5 5 . 4	仮排水路完成、本体掘削開始	総事業費	3 5 6 億円

ダム築堤材料について

材料名	粒径(㎜)	土質・岩質名
コア	0.074 ~ 100	礫混り粘性土、砂質シルト
フィルター	0.074 ~ 150	多孔質安山岩、集塊岩
ロック(Ⅱ)	4.800 ~ 1000	安山岩、風化安山岩、多孔質安山岩、集塊岩
ロック(Ⅰ)	4.800 ~ 1000	安山岩